

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	内科系臨床腫瘍医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	養成すべき人材像は、個々の専門科の特性を生かしながら、がんチーム医療の中でがん薬物療法を実践する臨床能力とともに、がんに関する臨床研究を実践する能力を身に付けた人材である。また、がん生物学・遺伝学などに基づいてがんゲノム情報を解釈するとともに、その情報を元に分子標的薬選択や予後予測などの臨床判断を行い、プレジジョンメディシンが実践できる人材である。さらに、高尚な倫理観とリーダーシップを持ち、国際的に活躍し指導的役割を担うリーダー足り得ることが望ましい。						
修了要件・履修方法	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下の【履修科目等】に記載のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。						
履修科目等	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。 <医療科学系専攻主科目> 生命倫理学(1単位)、臨床疫学または基礎疫学(2単位)、医学統計学または基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ(2単位)、所属分野科目(特論・演習・実習)(計16単位) <副科目> 基礎腫瘍学(2単位)、先端ゲノム医学(1単位)、緩和医療学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、化学療法学(2単位)、臨床研究方法論(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、消化器病専門医（日本消化器病学会）、呼吸器専門医（日本呼吸器学会）、血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	1年時には、がん医療の基盤的知識及び幅広いがん治療に関する講義を実施する。2～3年次には、がんに関連する複数の診療科やがん専門施設（国立がん研究センター、がん研有明病院など）において、多様ながんに対する化学療法、分子標的療法、放射線療法、低侵襲外科、緩和医療・リハビリテーションなどを経験するための臨床研修を実施する。4年次には、がん患者の治療計画をチームリーダーとして立案・実施する訓練を受け、専門的知識と技術を磨くとともに、がん薬物療法専門医や各がんに関連する内科の専門医の受験資格を得ることを目標とする。また、4年間かけて、基礎研究・臨床研究・トランスレーショナル研究の進め方について学習し、がんに関連する研究に従事する。また、エキスパートパネルなどに主体的に参加することにより、がんゲノム医療について学習する。						
指導体制	指導教授：片岡 圭亮（慶應義塾大学医学部内科学教室（血液）教授） 担当教官：浜本 康夫（慶應義塾大学医学部腫瘍センター准教授） 担当教官：安田 浩之（慶應義塾大学医学部内科学教室（呼吸器）准教授）						
修了者の進路・キャリアパス	・腫瘍内科医（がん薬物療法専門医取得） ・各がんに関連する内科の専門医・指導医（がん薬物療法専門医・各がんに関連する専門医取得）						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	5つの連携施設にがん薬物療法専門医を最低2人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						
履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0